

学童就学時の祈祷

輔司詠

君や、祝讃せよ。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主經

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。
蓋国と權能と光荣は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。
主憐めよ。(三次)。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
来たれ、我等の王神に叩拝せん。
来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第三十三聖詠

我何の時に主を讃め揚げん、彼を讃むるは恒に我が口に在り。我が霊は主を以て誇らん、溫柔なる者は聞きて樂まん。我と偕に主を尊め、偕に彼の名を崇め讃めん。我嘗て主を尋ねしに、彼は我に聆き納れて、我が都ての危きより我を免れしめ給えり。目を挙げて彼を仰ぐ者は照されたり、彼等の面は愧を受けざらん。此の貧しき者呼びしに、主は聆き納れて、之を其悉くの艱難より救えり。主の使は主を畏るる者を環り衛りて、彼等を援く。味えよ、主の如何に仁慈なるを見ん、彼を恃む人は福なり。凡そ主の聖人よ、主を畏れよ、蓋彼を畏るる者は乏しきことなし。少き獅は乏しくして餓え、唯主を尋ぬる者は何の幸福にも缺くるなし。少子よ、来りて我に聴け、主を畏るる畏れを爾等に訓えん。人生くるを望み、又壽えて幸福を見んことを欲するか、爾の舌を惡より、爾の口を偽りの言より止めよ。惡を避けて善を行い、和平を尋ねて之に従え。主の目は義人を顧み、其耳は彼等の呼ぶを聆く。唯主の面は惡を為す者に対う、其名を地より滅さん為なり。義人は呼ぶに、主は之を聴き、彼等を悉くの憂より

免れしむ。主は心の傷める者に近し、霊の謙る者を救わん。義人には憂多し、然れども主は之を悉く免れしめん。主は彼が悉くの骨を護り、其一も折れざらん。惡は罪人を殺し、義人を憎む者は亡びん。主は其諸僕の霊を救い、彼を頼む者は一人も亡びざらん。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

大聯禱

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。(以下每次同様)

上より降る安和と我等が霊の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。
我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。
此の都邑まちと凡の都邑まちと地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。
氣候順和、五穀豊穰ほうじょう、天下泰平たいへいの為に主に祈らん。
航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難かんなんに遭う者、虜とりことなりし者、及び
彼等の救の為に主に祈らん。
此の学童（或いは児童）等に、智恵と明哲との聖神を遣わし、彼等の知識と口と
を啓ひらき、心を照して、善き教導を受けしむるが為に主に祈らん。
彼等の心に智恵の源もとなる神を畏るる畏れを納れて、幼少の粗暴を其心より遠ざけ、
彼等の知識を照して、悪を避け、善を行おこなわしむるが為に主に祈らん。
彼等の知識を啓き、凡の善にして、靈に利益ある教導を受けて悟りを得、之を記
憶せしむるが為に主に祈らん。
彼等に神の宝座より発する智恵を與え、之を其心に納れて、彼等に何事が主に喜
ばるるやを教ゆるが為に主に祈らん。
彼等が智恵と齡よわいとに日々成長し、神の光榮を顕すが為に主に祈らん。

輔 彼等が智恵と徳行の度生を送り、正教に堅立する事に依りて、両親には喜びと慰
め、聖なる教会には固めとなるが為に主に祈らん。
輔 彼等と我等が諸の憂愁うれいと忿怒いかりと危難あやうきとを免るるが為に主に祈らん。
輔 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。
輔 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、
諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の
生命を以て、ハリストス神に委託せん
主爾に。
司 蓋凡そ光榮尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
詠 アミン。

主は神なり

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。
詠 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。（三次）
輔 （句）主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐みは世世にあればなり。

(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。
(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。
(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ (第六調)

救世主や、爾が其門徒の中に来りて平安を彼等に與えしが如く、我等に来りて、我等を救い給え、ハリストス神や、爾の聖神は無学なる門徒を教導師となし、多種の方言の和合を以て迷を空うせり、全能の主なればなり。

(第八調)

光榮は父と子と聖神に歸す、
崇め讃めらるるかなハリストス我等の神や、
智恵深き漁者となし、彼等にて世界を漁し得たり、人を愛する主や、
光榮は爾に歸す。

今も何時も世世に、アミン。(同調)

ハリストイアニン等の恥を得ざる轉達、造物主の前に変らざる仲保や、罪なる者

の祈りの声を退くる勿れ、仁慈なるに依りて速に我等を助け給え、
切に爾に呼ぶ、生神女よ、爾を尊む者に常に代わりて、急ぎて祈り、
給え。

謹みて聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

睿智。

ポロキメン

爾は嬰兒と哺乳者の口より、讚美を備えたり。

爾は嬰兒と哺乳者の口より、讚美を備えたり。

我が心爾の救を喜ばん。

爾は嬰兒と哺乳者の口より、讚美を備えたり。

爾は嬰兒と哺乳者の口より、

讚美を備えたり。

輔 睿智。

輔 誦 聖使徒パウエルがエフェス人に達する書の読み。
輔 誦 慎みて聴くべし。

書 札 (エフェス書 一・一六―一九、三・一八―二二)

「兄弟よ、我断えず爾等の為に感謝し、我が祈祷の時に爾等を記憶す、願わくは我等の主イエス・ハリストスの神、光荣の父は、爾等に智慧と黙示との神を與えて、彼を識らしめ、及び爾等が心の目を明にせんことを、爾等が其召の望如何、其聖徒の為に備うる嗣業の光荣の豊厚なること如何、及び我等彼が権の力の行為に由りて信ずる者の中に、其能の極めて大なること如何を知らん為なり。信に由りて、ハリストスの爾等の心に居るを賜わんことを、爾等が愛に根ざされ、基づけられて、衆聖徒と偕に、闊さと長さで深さと高さとの何なるを悟り、及びハリストスの測り難き愛を知るを得ん為、爾等が凡の神の充滿に満てられん為なり。夫の我等の中に行爲する能に循いて、我等が凡そ求むる所或は思う所よりも極めて多く為すを得る者には、願わくは光荣は、教会に於て、ハリス

トス・イエスに因りて、萬代彼に帰して、世世に至らん、アミン。」

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

マルコ伝の聖福音經の読み。

主や、光荣は爾に帰し、光荣は爾に帰す。

謹みて聴くべし。

福 音 (マルコ伝 一〇・一三―一六)

「彼の時、幼児をイエスに携え来れるあり、彼等に触れん為なり、門徒携うる者を戒めたり。然れどもイエス之を見て、愠りて彼等に謂えり、幼児の我に就くを容せ、之に禁ずる勿れ、蓋神の国は是くの如き者に属す。我誠に爾等に語ぐ、幼児の如くに神の国を承けざる者は、之に入るを得ず。乃彼等を抱き、手を其上に按せて、彼等に祝福せり。」

詠 主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。

重 聯 禱

輔 我等皆靈を全うして曰わん、我等の思を全うして曰わん。

詠 主^{あわれ}憐めよ。

輔 主全能者吾が列祖の神や、爾に祈る、聆^きき納^いれて憐めよ。

詠 主^{あわれ}憐めよ。

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆^きき納^いれて憐めよ。

詠 主^{あわれ}憐めよ。(三次) (以下每次同様)

輔 又我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

輔 又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

輔 仁慈にして人を愛する主や、此の学童(或いは兒童)等を顧^{かえり}み、彼等に智恵と

明哲と敬虔と神を畏るる畏との聖神を遣わし、彼等を其善良なる光りにて照らし、

司 彼等に力を与え、神の戒命^{いましめ}及び悉くの善良^{かつ}且利益なる教導を受けて、速^{すみやか}に悟り、

彼等の智恵と善行を以て神の聖なる名の光榮を顕わし、彼等に壮健と永生とを與^{あた}

え、教会の誉^{ほま}れ及び光榮と為し給え、爾に祈る、仁慈を以て聆^きき納^いれて憐めよ。

司 神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃^{たのみ}や、我等に聞き給え、主宰や、

我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛

する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

司 アミン。

詠 主に祈らん。

詠 主^{あわれ}憐めよ。

祝 文

司 主我等の造成主、爾の尊^{ぞう}き像を以て我等人々を飾り、爾の選^えびたる者を教えて、

其教えを述ぶる者を驚^{おどろ}かしめ、幼童^{おきなこ}の智恵を開き、ソロモン及び凡そ爾の智恵

を求むる者を教えし主宰よ、此の爾の諸僕婢の心と知識を開き、彼等に爾の法の力

を授け、善^よく進歩して授けらるる所の利益なる教えを覚え、至善にして完備なる爾の

旨^{むね}を悟り、爾の至聖なる名の光荣と爾の聖なる教会の利益と建立とに努めしめ、彼等を凡の敵の悪謀^{あくぼう}より救い、彼等を生涯純正の教えと堅き信及び凡の敬虔^{けいけん}と潔淨^{まも}とに護り、常に彼等を明哲^{めいてつ}と爾が諸^{もろもろ}の誠^{いしまめ}を成就する事とに進歩^{しんぽ}せしめ給え、彼等が爾の至聖なる名を讃揚^{さんやう}し、爾の国の世継ぎとならんが為なり、

蓋爾は仁慈にして剛毅^{こうき}、堅固にして至善なる神なり、凡そ光荣尊貴伏拝は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワームより尊くセラフームに並びなく栄え、貞操^{めいさお}を破^{やぶ}らずして神言^{かみことば}を生みし、実^{じつ}の生神女たる爾を崇め讃む。

ハリストス神我等の恃^{たのみ}や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐^{あわれ}めよ（三次）。

福を降せ。

ハリストス我等の真の神は、其至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日

詠

本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

※（司祭、十字架で子供達を祝福しながら、曰く。）

司 主の降福は、恩寵と慈憐と仁愛とによりて爾等と共に在らん、今も何時も世世に。
詠 アミン。

※（司祭、子供達が十字架に接吻する時、聖水を灌ぐ。謂う所なし。）